

PT・OT・STポケットマニュアル

国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーションセンター ● 編
角田 巨 ● 責任編集
西田 裕介, 森井 和枝, 後藤 和也, 白砂 寛基, 大森 智裕 ● 編集協力

A6・頁360
定価:3,960円(本体3,600円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05104-0

【評者】 庄本 康治
畿央大教授・理学療法学/学科長

本書『PT・OT・ST ポケットマニュアル』が発刊されました。ポケットに収まるサイズでありながら広範囲を網羅、かつわかりやすい内容になっています。

I章の「リハビリテーション・プロフェッショナルとしての常識」では、プロフェッショナルとしての在り方、認知・非認知能力の重要性、診療記録、キャリアパスへの示唆まで論述されています。まさに、新人セラピストが最初に目を通すべき内容だと感じましたし、診療参加型臨床実習に参加中の学生が熟読すべき内容であるとも思いました。II章「リハビリテーション医療の基礎知識」では、ICF、病期ごとのリハビリテーション、リスク管理、診療報酬システムなどについて論述されています。III章「リハビリテーション評価の基本」では、問診と面接から広範囲の基本的評価について論述されていますが、図表や画像所見も豊富で、大変わかりやすくなっています。IV章「リハビリテーション治療の基本」では、関節可動域訓練やポジショニングなどのペー

日々の臨床で悩む療法士や臨床実習に臨む学生の羅針盤



自信をもって患者さんに向き合うために、ポケットにこの1冊。

シックな治療はもちろんですが、エビデンスに基づく最新治療についても簡単に紹介されていて、本書から論文や書籍などの検索に進むことも可能です。

V章「疾患ごとのリハビリテーション診療」では、さまざまな疾患に対する推奨治療が多くの図表を使用してコンパクトに論述されています。VI章「重要評価スケール」では、代表的評価方法がコンパクトにまとめられています。

若手セラピストは、当初はプロフェッショナルとしての覚悟が低い場合が多く、日々の臨床で悩み、問題点を解決し、成長していく経験こそが重要になります。そのため、羅針盤的存在のポケットマニュアルとして本書が大変有効であり、On-the-Job Trainingの手助けをする一冊となってくれることでしょう。同時に、診療参加型臨床実習に参加される学生さんが、エビデンスに基づいた評価・治療を実践していくにあたり大きな影響を与えることができ得る書籍であることは間違いありません。

【第1回】糖尿病

日本列島では、中国から漢字が流れ着いた時から歴史の記録が始まり、思想を残すことや科学することも始まった。ところが、19世紀後半になり、中国や日本に西洋文明が押し寄せてきた時、その膨大でさまざまな概念を取り入れるために漢字の組み合わせ(熟語)が工夫された。その多くは中国よりも少し早く日本でなされ、中国に逆輸出されていった。その代表格は「社会」「哲学」「地球」などである。医学の領域でも「神経」を始め、多数の用語が日本から中国に渡っていった。本連載では、逆輸出された医学用語の歴史をひもといていきたい。

どのような用語が逆輸出されたかを探すのにとっても便利な辞典がある。『新華外来詞典』(北京:商務印書館, 2019)だ(現代中国の簡体字や旧字は、今後とも用いない)。第1回は「糖尿病」を取り上げる。患者団体などから「尿が入っているのが不快だから用語を変更したい」との動きがあるからである。賛否はともかくも用語の歴史を概観してからにしてほしいと筆者は思っている。なお、本連載における用語の初出等は『新華外来詞典』『日本国語大辞典』『Google Scholar』を参考にしており、煩瑣な表記となるため情報元についてそれぞれ明記しないこともある。

「糖尿」はGlycosuriaの訳として、奥山虎章がまとめた『医語類聚』(1872)に初出する。学術外では1934年の寺田寅彦の書簡に出てくる「所長が少し糖尿の気味だといふ話」が最初のものである[日国友の会のWebサイト(https://onl.sc/B3cwRL3)]を参照。日国=日本国語大辞典。Diabetes mellitusのdiabetesはその前に1792年の『西説内科撰要』に「尿崩」として登場している。Diabetesはギリシャ語由来で「サイフォン」のことで、多尿がイメージされている。Mellitusは「蜜」のことであり、diabetes mellitusは当初「蜜尿病」と訳されていた[『増訂内科提要』(1875)]。「糖尿病」の論文初出は1887年の「蔓延性脳脊髄 Sclerosis に於ける糖尿病の発見」(順天堂医学誌記事)と思われる。中国ではこの病態は「消渴」とされていて本邦でもこれが用いられていたが、「糖尿病」は1918年になって『西薬指南』(覚迷)に現れる(西薬=西洋薬)。

●ふくたけ・としお氏
東大理学部数学科中退。医学系予備校講師を経て、1981年千葉大医学部卒。同大学院医学研究院神経病態学助教授を経て、2003年から現職。日本漢字学会正会員。『神経症状の診かた・考えかた—General Neurologyのすすめ(第3版)』『標準的神経治療 しびれ感』(共に医学書院)など著書、編書多数。



福武 敏夫
鳥田メディカルセンター 脳神経内科部長

神経症状の診かた・考えかた 第3版 General Neurologyのすすめ

福武 敏夫 ● 著

B5・頁440
定価:5,940円(本体5,400円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05103-3

【評者】 上田 剛士
洛和会丸太町病院救急・総合診療科部長

『神経症状の診かた・考えかた—General Neurologyのすすめ』は、日本ではまだなじみの薄い「General Neurology(総合神経学)」に関する書籍である。2014年に初版が出版されて以来、総合診療

医や脳神経内科医を中心として多くの医師に感銘を与え続けてきた本書が、待望の第3版を迎えた。

頭痛、めまい、しびれなどの身近な症状に対して、問診と身体診察を中心に解説した本書は、堅苦しい話は最小限にとどめながら、ベッドサイドで役立つ情報をこれでもかと言わんばかりに詰め込んでいる。著者は「臨床場面で患者に向き合う時、何か気概・情熱をもって臨む(中略)そういう気概を『臨床力』と呼びたい」と述べており、

著者の熱い心に触れ、明日の診療につながる気力を得る

本書は「臨床力」や「臨床推論力」を養いたい人々にとって最適な内容となっている。著者の熱い心に触れ、明日からの診療につながる気力を得られる読者は多いだろう。

第3版では、肩こりの章も新たに追加された。身近な症状にもかかわらず、今まであまり書籍や論文に記述されてこなかった肩こりについても一つの章を割いて取り上げたことは、「General Neurology」ならではの取り組みだ。さらに、物忘れ、精神症状、けいれん、意識障害、パーキンソン症候群など、他の神経症候についても一通り記述されているため、一般外来で出会う脳神経内科領域の病態を一通りカバーできる一冊となっている。

本書の本文では、著者の豊富な経験と知識に基づいた疾患の本筋をとらえたスマートな記述が目を引く。本文だけでも、脳神経内科領域の基礎知識を固めることができる。それに加え随所に散りばめられている「症例」と「Memo」というコラムも秀逸である。「症例」では、実際の症例を疑似体験することで、生きた知識が定着していくことが体感できる。紹介された症例はいずれもコンパクトな記載にもかかわらず、示唆に富んだものばかりであり、症例だけを斜め読みしていくという楽しみ方もよいだろう。「Memo」では、歴史的背景など知っておくと楽しくなるような知識が盛りだくさんである。もちろん臨床的に重要な事項も

多く含まれている。アドバンスな小ネタが本書に良いアクセントを加えてくれている訳だ。

総合的に見ると、本書は「General Neurology」に関する入門書としても、ある程度の経験を積んだ臨床医のさらなるスキルアップのための実践的なテキストとしても非常に優れた内容となっている。初版から長年にわたり多くの医師から支持され続けているのは、その内容の充実度とともに、著者の熱意が伝わってくるからだろう。本書を手にとった読者が、脳神経内科領域においてさらなるスキルアップをめざし、患者さんに寄り添う臨床医として成長することを期待したい。

Web限定 医学界新聞プラス
今すぐ check!
医学書院の話題書、発売前の新刊内容を無料で公開!

152の治療薬を網羅! 臨床に役立つ“もうひとつの”ストール本
新刊 精神科治療薬の考え方と使い方 第4版
「ストール精神薬理学エッセンシャルズ」準拠
Prescriber's Guide: Stahl's Essential Psychopharmacology, 7th Edition
▶「ストール精神薬理学エッセンシャルズ」の姉妹書、7年ぶりの改訂。臨床実践に焦点を当て、治療薬の理解を深める考え方と臨床に即した使い方を提示する。改訂にもない新薬が追加され、著者ストールのユニークな主張が垣間見える「臨床の知恵」も大幅更新。ストールの簡潔で鮮やかな記述、オールカラーで見やすく調べやすい構成は引き継がれ、日本での「商品名」「適応」「投与方法」「警告・禁忌」の記載は今版でも継続。「エッセンシャルズ」との併用でより理解が深まる。
訳: 仙波純一 東京愛成会 たかつきクリニック
定価12,100円(本体11,000円+税10%)
B5変 頁1024 色図21 2023年
ISBN978-4-8157-3076-5

新刊 周術期管理における力強い意思決定のために
周術期内科管理のディジジョンメイキング
Decision Making in Perioperative Medicine: Clinical Pearls
▶新たなエビデンスが次々登場するなかでも色褪せない、周術期管理に関するクリニカルパールが数多く盛り込まれた米国内科学会(ACP)刊行書籍の邦訳。「周術期患者ケア入門」「予防」「術前評価と周術期管理」「術後の問題」の4つのセクションで構成。周術期の内科管理の全体像を、臨床に即して過不足なくコンパクトかつ体系的に網羅。麻酔科医をはじめ、周術期管理に携わるすべての医療従事者必読の書。
監訳: 江木盛時 京都大学医学部附属病院 麻酔科
定価6,380円(本体5,800円+税10%)
B5変 頁344 図45 2023年
ISBN978-4-8157-3077-2